



ニデック SDGs 宣言

当社は、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）の趣旨に賛同し、
持続可能な社会の実現に貢献することを宣言します。

2021年8月7日

10年後の当社の存在意義

「みる」喜びと健康を技術で支え、
変わらない安心を世界へ届ける。

10年後のニデックの存在意義と4つの強み



「みる」喜びと健康を技術で支え、変わらない安心を世界へ届ける。

ひたむきに目の健康に取り組み、
人工視覚や再生医療製品などの
夢に挑戦し続ける。

眼科、眼鏡店等のあらゆる
ニーズに応える技術と品質を
提供する。

ニデックの4つの強み
Eye & Health Care

開発、生産、販売、サービスの
全てを一貫する責任ある
事業モデルで世界に展開する。

社会との共生、
社員との絆を大切にする。

【基本姿勢“3つのアイ”】：“3つのアイ”は物事を進める上での基本です。全社員がこの姿勢を理解し仕事に取り組みます。

“気概 KIGAI” 不可能と思われることにも挑戦し、高い目標を達成しようとする意気込み、どんな仕事でも必ずやり抜くという強い意志。

“違い CHIGAI” 人がやらないこと、人ができないことを実現し、違いを出すこと

“世界 SEKAI” “世界”で通用するためには、相手のことを理解し、協力していくこと

設立の目的：「見えないものを見えるようにしたい」「見えたものを認識できるようにしたい」「眼に関する優れた機器をつくりたい」

ニデックと社会の重点課題

多様性社会との共存

世界中の多様なユーザーに 「みる」ソリューションを提供する

- ▶ 変化する多様なニーズを吸収する仕組み作り
- ▶ 多様性に応じた製品・サービスの提供
- ▶ 製品・サービスを提供する領域の拡充



予防医療を促進する社会づくり

目から予防医療を身近にし 人々の健康維持を支える

- ▶ 目の検査を身近なものにする技術開発
- ▶ 目の検査を普及するためのパートナーシップ構築
- ▶ 目から健康維持に関する情報発信と検査機会の提供



環境配慮と資源循環

地球に優しいものづくり体制を構築する

- ▶ 環境配慮型の製品開発
- ▶ 環境配慮型製品の啓発活動
- ▶ DX推進による省資源化



目に疾病のある方を支える

パートナーと共にQOLの向上を実現する

- ▶ 見えないものを見えるようにする技術への挑戦
- ▶ 「みる」をサポートする製品づくり
- ▶ QOLの向上を目指す環境づくり



「みる」喜びと健康を技術で支え、
変わらない安心を世界へ届ける。



SDGsに貢献するビジネスモデル①

多様性社会との共存

世界中の多様なユーザーに「みる」ソリューションを提供する

▶変化する多様なニーズを吸収する仕組み作り

■取引先・代理店や現地オピニオンリーダーとの協力体制の強化

世界各国の拠点を拡充しながら、国内外を問わず、取引先との協力体制の強化を行い、眼科医療ネットワークを構築。「みる」ソリューションを全世界へ提供する。



▶多様性に応じた製品・サービスの提供

■製品のユニバーサルデザイン化やサービスの強化

世界各地の多様なニーズに応える開発体制を構築し、視機能や言語を問わず直感的な操作が可能な製品やマニュアルの映像化等のサービスを提供する。



▶製品・サービスを提供する領域の拡充

■「みる」価値を新たなビジネス領域に提案

視機能維持が重要な職業に対する検査装置の開発など、「みる」価値によって社会を支えていく。



■販売代理店の拡充とパートナーシップ強化

販売代理店とのパートナーシップを拡大し、より多くのユーザーに製品を届けると同時に、目の健康の啓発活動などを共同推進する。



SDGsに貢献するビジネスモデル②

環境配慮と資源循環

地球に優しいものづくり体制を構築する

▶環境に配慮した製品開発

■省資源を目指した製品開発

製品の製造過程における省資源や、廃棄物削減、部品の共通化、梱包材の再資源化などを進め環境負荷を低減する製品開発を行う。



■再生可能エネルギーを利用した生産

再生可能エネルギーを100%利用した製品を目指した生産をすることで、環境負荷を低減したものづくりを実践する。



▶環境配慮型製品の啓発活動

■顧客が取組む環境配慮対策へのソリューション提案

当社製品の環境貢献性能の理解促進を図り、製品やサービスを利用される皆様と共に適正な資源の再利用や排水処理を提案する。また、ご利用環境に配慮した資源活用を最大限引き出せるサービスを提案する。



▶DX推進による省資源化

■サービスのデジタル化推進

WEBサイトやリモート機能を充実させ当社製品やサービスを利用される皆様とのコミュニケーションやサポートの体制を構築し、サービスの質の向上と同時に人や物の移動を省資源化する。



■全社システムの最適化による生産性向上

ICT技術を有効活用した業務プロセスの見直しを実施し、全社システムを最適化することによって資材やエネルギーの消費量を削減する。



SDGsに貢献するビジネスモデル③

予防医療を促進する社会づくり

目から予防医療を身近にし人々の健康維持を支える

▶ 目の検査を身近なものにする技術開発

■ 検査を日常化する技術開発

シンプル、軽量で取り扱いやすいポータブル製品の開発や、モバイル端末によるセルフ検査や目のオンライン診療など、目の検査を身近にするための製品やサービスの提供。



▶ 目の検査を普及するためのパートナーシップ構築

■ 検査機会を増やすために各団体や企業との連携

研究機関、病院、健診センター、業界団体、販売店等の新規パートナーを開拓し、検査機会を拡充することで、社会全体で目の健康を支える仕組みをつくる。



▶ 目から健康維持に関する情報発信と検査機会の提供

■ パートナーと共に目の検査の重要性を伝え、目の検査の価値を高める取組み

パートナーとの協働による情報発信やワークショップなどを通して、目の健康管理の啓発活動を推進。また、新興国で眼科医や医療従事者の育成支援に取り組む。



SDGsに貢献するビジネスモデル④

目に疾病のある方を支える

パートナーと共にQOLの向上を実現する

▶ 見えないものを見えるようにする技術への挑戦

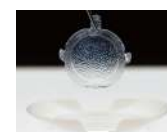
■ 人工網膜システムの開発

創業以来の夢であり目標でもある「見えないものを見えるようにする」技術開発によって、「みる」喜びを提供する。



■ 再生医療への取り組み

再生医療技術を用いた製品開発を通して眼科医療の発展へ貢献する。



■ 生物学の研究

生物学に立脚したQOL向上のための技術研究を推進。

▶ 「みる」をサポートする製品づくり

■ 生活を快適にする製品の提供

医療機器にとどまらず、人々の生活を豊かで快適にする製品を積極的に開発し、自社の技術力をQOL向上のために役立てていく。



▶ QOLの向上を目指す環境づくり

■ 目にやさしい街づくり

様々な取り組みのモデルケースを地方自治体や病院、企業、各種団体とのパートナーシップを通して実施しながら、目に疾病のある方でも住みやすい街づくりを行う。そして世界へ取組みを拡充していく



■ 健康に貢献する団体活動に参加や支援

国内外の健康支援団体に積極的に参加する他、世界の健康に貢献する団体を支援する。

